

きもの二十四節気 大雪・冬至 ~ 小寒・大寒



三木家前。前列右から4番目が三木信夫さん、5番目が三村隆範さん。

大嘗祭に向けて 中谷比佐子
 だじまきい

2019年には天皇陛下の譲位が現実になるようです。その時にどうしても必要な物があります。それが「籠服(あらたえ)」です。この「籠服」は大麻(おおあざ)で作ります。

日本の大麻は、昭和23年に栽培が禁止になり、植える場合は都道府県の長の許可制となりました。しかも期限は1年間です。年が経つと申請し、調査の結果許可をいただくという流れ。

なぜこのように面倒くさくなったのか、2つの理由があります。一つ目は大麻の花穂にカンナビナイドという薬効成分がマリファナと呼ばれる麻薬という枠になっちゃいました。これは医療にもともと使われていて、痛み止めの特効薬でもあったのですが人によっちゃ、これを用いて気分を穏やかにしたり、精神的に高揚させたりするところから、使用禁止になってしまったのですが、今では煙草より害が少ないという科学的な結果も出ています。

敗戦前までの日本には、大麻は至るところに自生していましたが、日

匠たちの手仕事 VOL.5

「籠服」
 阿波忌部氏直系二十八代当主 三木信夫

10月半ば「KOSMOS つれづれツアー」で向かった先は徳島県美馬市。三木信夫さんを訪ねました。チャコちゃん先生が三木さんと初めてお会いしたのは、麻関係のトークショー。以来5年にわたるご縁で、三木家への訪問は今回で4度目。「阿波古事記研究会」副会長 三村隆範先生も、同行してくれました。

「御衣御殿人」がつくる籠服

天皇陛下が皇位を譲る際の秘儀「踐祚大嘗祭(せんそだいじょうさい)」でのみ必要となる大麻の布が「籠服」。古来より「阿波忌部氏の織りたるを用うる」と定められてきました。それはもちろん、販売するものではなく、献上ですらなく、「進上」されるもの。進上とは「人に物を差し上げること」なのですが、書状の表に書いて経緯を表す言葉。つまり天皇御より、三木家に依頼状のようなものが届けられる。その書状に決まりが書かれているということです。

- 一、皇室からの依頼
- 二、種まき
- 三、製麻にし、糸を績み、機を織って籠服を作る
- 四、完成した籠服を、御殿人である三木家に安置する
- 五、籠服を、勅使である籠服の御衣使いに渡し御殿人同道
- 六、その籠服を、神祇官が保管する
- 七、御殿人が再び籠服を受け取り、大嘗祭が行われる大嘗宮へ供納する



平成の籠服調進の製の一部が残されている。



資料館展示の織機。



実際に使われた機道具。



左から「から」「精麻」「大麻茎乾燥」「技麻茎(ぼつまくき)」

◎三木家住宅
 〒779-3600 徳島県美馬市木屋平貫143
 TEL 0883-52-8011
 *隣接した「三木家資料館」にて、「籠服」制作に関する一連の資料展示あり。
 問い合わせ: 美馬市教育委員会 文化スポーツ課 0883-52-8011
 ■[HEMP LIFE] (p.3) で詳細に書かれていますので、こちらまでどうぞ。



麻畑地、ついつい裸足で歩きたくなります。

衣服は私達にいろんなことを教えてくれます。その声に耳を傾けるときが来ます。便利だけを追い求めていると、多くの文化を捨て去ることにもなりかねません。

世界で一番長く続いている王家は、日本の天皇家です。その天皇家の伝統行事を国民の支持のもとに続けられればもうと国を愛する気持ちが生まれてくるのではないのでしょうか。日本の国に日本人として生まれた喜び、それは国産の自然素材を身につける幸せにあると思います。

KOSMOS
 秋櫻舎講座スケジュール
 schedule
 2017年11-12月

イベント・講演

X'mas Party 2017
 ~着物表現を愉しむ~

今年のクリスマスパーティーは、初めての和風スタイルです。浅草見番の目の前「浅草懐石 瓢庵」で、お膳に舌鼓(料理長は現代の名工!)。粋な女将さんのお話、浅草の芸者さんの舞を愉しみましょう。どんなお話が出てくるかは、当日までのお楽しみ。

今年の着物コードは「人を愉ませる着物、自分が愉しい着物」、決まりはありません。2017年の締めくくりのひと時、お話しあわせの上お出かけください。

- 会場 浅草懐石 瓢庵(ひさごあん) 台東区浅草 3-34-11 観音うら柳通り 銀座線 / 東武線浅草駅より徒歩 12分(コロコロ会館裏手、浅草見番前) TEL 03-3876-8811
- 会費 15,000円(飲み物別)
- 要予約。お早目に秋櫻舎へメール、またはお電話ください。会費は、下記へお振込みをお願いします。



つれづれの会

●テーマ 糸を中心に素材を学び直す~取材で得た話(養蚕地の実話など)~ (2018年は新テーマに!)
 ●開催予定日(全て第4土曜日) 11/25
 ●参加費 5,000円(税込)
 ★今年のつれづれ XmasPartyは、12/2(土)浅草の料亭「瓢庵」です。

ナイトコスモス

ナイトコスモスは、12月よりしばらくの間お休みとさせていただきますので、ご了承ください。



創刊の内幕 | HEMP LIFE

日本の繊維はナントいっても絹、そして麻。古来より日本人の身近にあった「大麻(おおあざ)」を、様々な角度からフォーチャーした、全く新しい雑誌が創刊されました。編集長は、チャコちゃん先生の長年の知人 長吉秀夫さん。巻頭特集は、チャコちゃん先生が阿波忌部氏直系当主 三木信夫氏と対談した「天皇即位の秘儀「踐祚大嘗祭」と籠服」、繊維、伝統、食、医療、嗜好と幅広い切り口で奥深く掘り下げられた、まるごと一冊大満足!という雑誌。是非一読を。

[HEMP LIFE] 発行: キラジエンヌ(株) ¥1,300(税込)
 * 秋櫻舎でも取り扱っております。

~未来を変える、人生を豊かにする HENPLIFEMAGAZINE~

参加費のお振込先 みずほ銀行 新宿西口支店 普通 2156393 (株) 秋櫻舎

本人はこのカンナビノイドを利用する習慣はありませんでした。ただ私が吉原の遊郭(ゆうかく)を取材した折、口の大きな煙管(きせる)をみて

「普通の葉たばこの煙管より口が広いですね、肺活量が強くないと」

「あ、これはね大麻なの、体を元気にするから私たちには必要、またこの油は」

「と声を潜めて秘密を教えてくださいました。ホーと感心しきりの初な私でした。二つ目。石油繊維の広がりを世界的に狙った企業は、日本の自然素材の



美しい山景色が広がる。右下が麻畑地。

絶滅を目指しました。日本の生糸は世界に類のない優秀な絹で、世界中の女性の憧れの的。その証拠に、エリザベス女王の戴冠式の晴れ着は日本の愛媛県野村町の絹が選ばれております。

裾を長く引いた女王のドレスは絹の光沢で女王の輝きを増す手伝いをしていました。今でも野村町の博物館にはその時と同じものが残っています。

安価で使えがかんたんな石油繊維の布は、既に世界を網羅し、日本でも絹が売れなくなつたので、桑畑

は林檎畑や宅地に、養蚕農家も次々事業たため、相産業は落日を余儀なくされています。

そして大麻

大麻は神の拠り所として、古代から、神事に無くてはならないものでした。神社の注連縄(しめなわ)を始め、鈴緒(すずお)、神宮大麻(じんぐうだいま)、お祓い、横綱の綱、浄衣(じようい)などなど、どれが、昨今の神社に行くとその殆どはビニールの注連縄。たまにわらの注連縄もあります。

日本麻振興会では、有志の皆さんにより、取り急ぎ大嘗祭までに徳島の由緒ある神社の注連縄と鈴緒をビニールから大麻に取り替える運動をしています。

なぜ徳島? なぜ三木家?

大嘗祭に必須の「籠服」は徳島の三木家で作られます。これは平安時代から永遠に続いている伝統行事です。

三木家は古代民族、忌部(いんべ)の直系。「三木さん今何代目ですか」

と野暮な質問をした私。日本の歴史とともに続いている家系なのです。(バカね!)

忌部は中臣(後に藤原家)と同じように宮中の祭祀(さいし)を受け持つ家柄です。特に忌部は天皇陛下即位の祭祀を担当しているのです。

天皇陛下即位の儀式の中でも、もっとも重要な大嘗祭。そのときに使われる「籠服」の布は、大麻である必要があります。これも大麻が神の依代であることなのですが、それも忌部の家柄の人の制作でないとけないし、忌部神社で織ることが歴史的行われているのです。更に三木家の畑で採取されたものである必要があるのです。

大嘗祭に大麻の布を神の拠(よ)り所としてそこに神様をお招きします。世継ぎになられる新天皇陛下が、新たにこの国の祭祀を行うことを固く決心し、神様に誓う儀式が爾々(しゆくしゆく)と行われるのです。

そしてなぜ徳島かといえば、ここ阿波の国が「古事記」上巻に書かれた場所です。天孫降臨の地であることを昔の人は知っていたのです。私たちは布から日本の本当の歴史を識る事ができます。

人類が誕生して以来、体を覆う